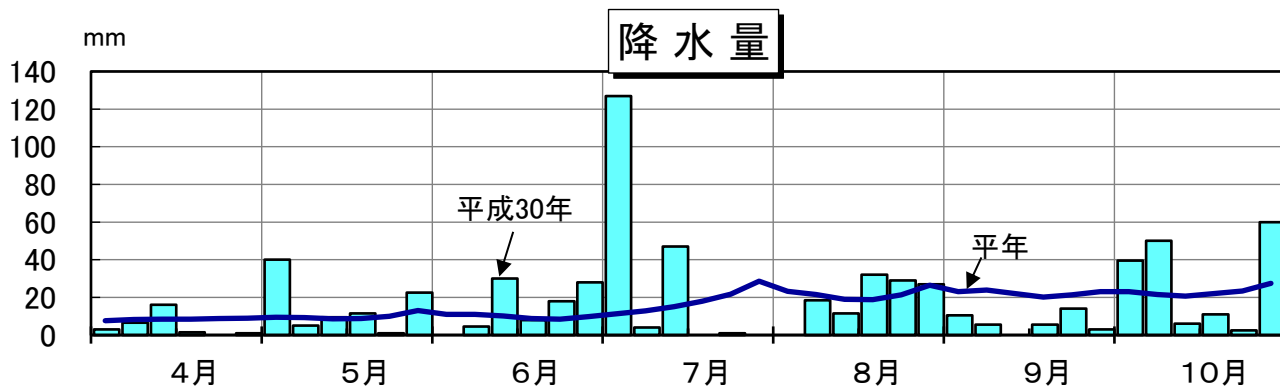
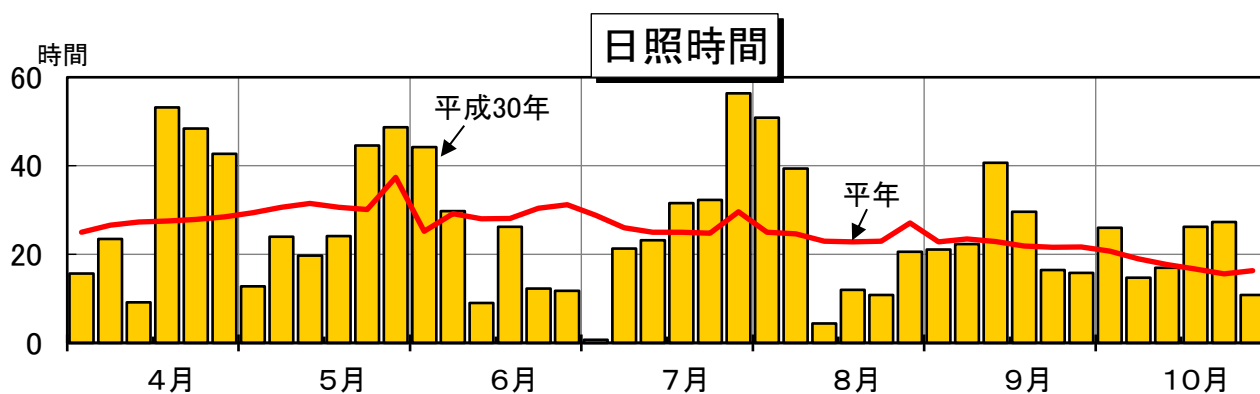
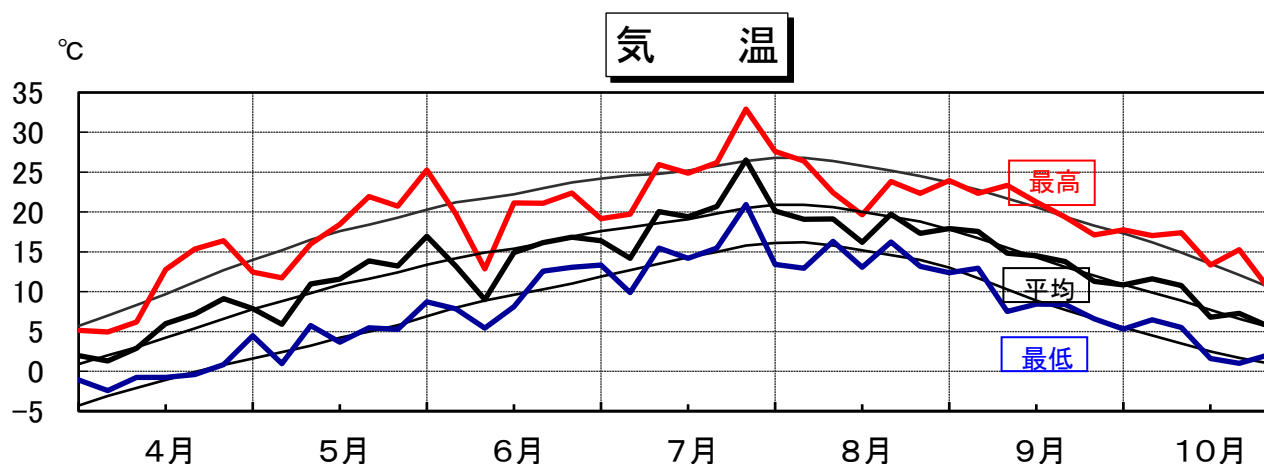


1 平成30年 気象経過

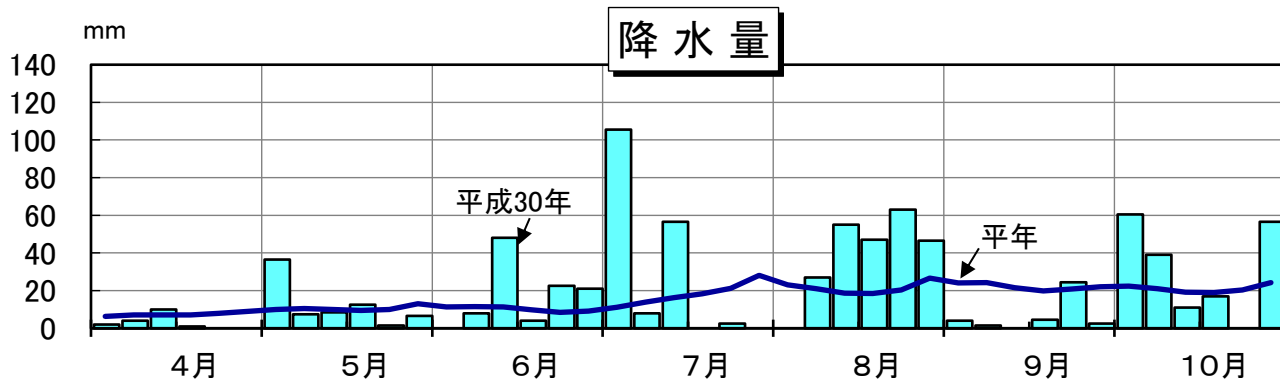
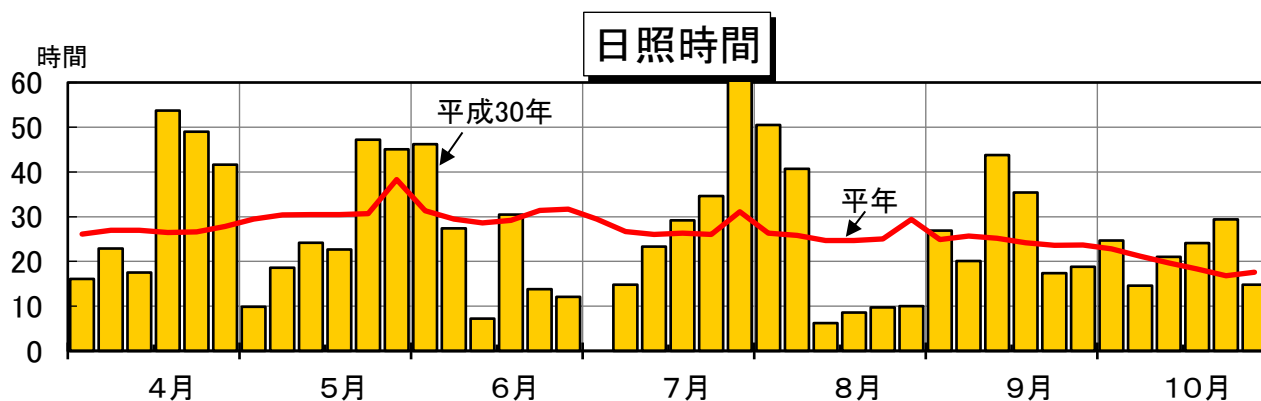
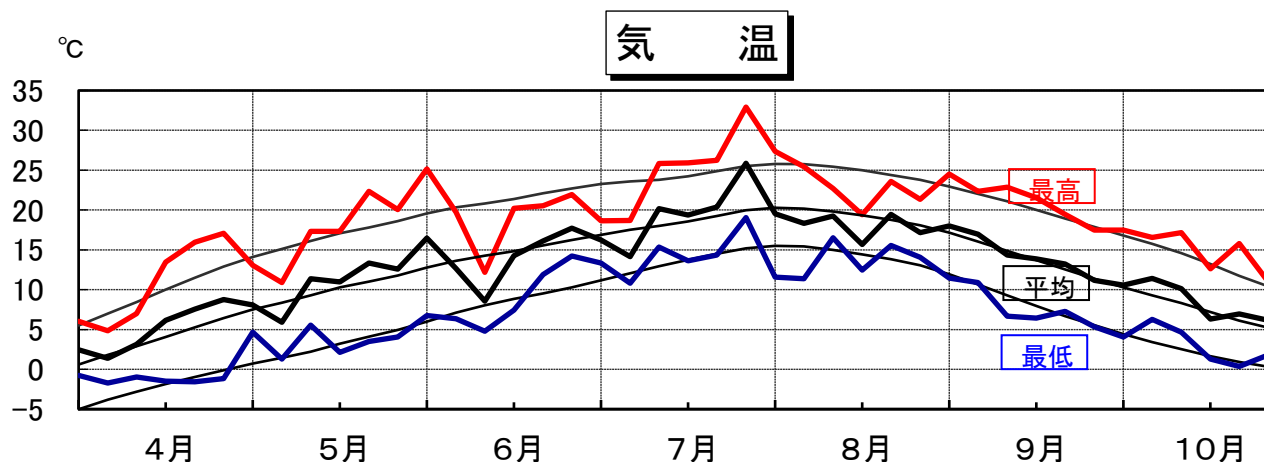
観測地: 美深アメダス



■農業気象平年対比総括表

項目	積算気温 (°C)			日照時間 (hr)			降水量 (mm)		
	30年	平年	対比	30年	平年	対比	30年	平年	対比
5~9	2,403	2,431	99	757	801	95	514	490	105
7	613	589	104	166	159	104	179	108	167
8	575	622	93	138	146	95	118	130	90

年・比較				年・比較					
項目		30年	平年	対比	項目		30年	平年	対比
長期積雪	終日	4/26	4/19	7日遅れ	霜	終日	5/5	5/13	8日早い
	初日	11/21	11/22	1日早い		初日	10/20	10/16	4日遅れ
※融雪期		4/26	4/22	4日遅れ	※農用地での普及センター測定値				



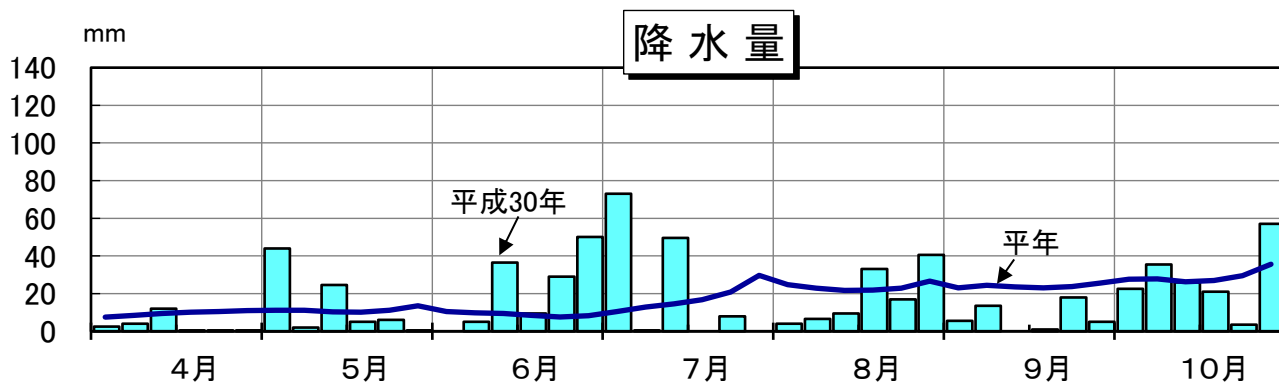
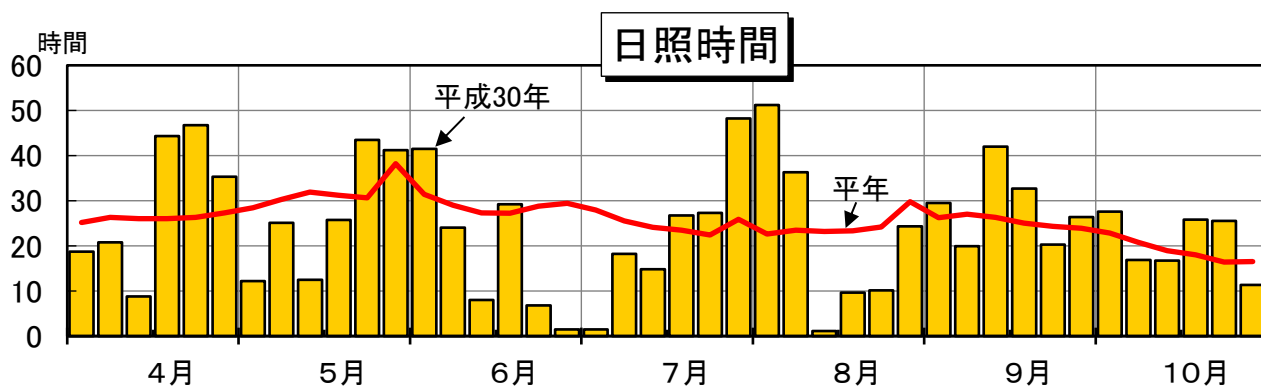
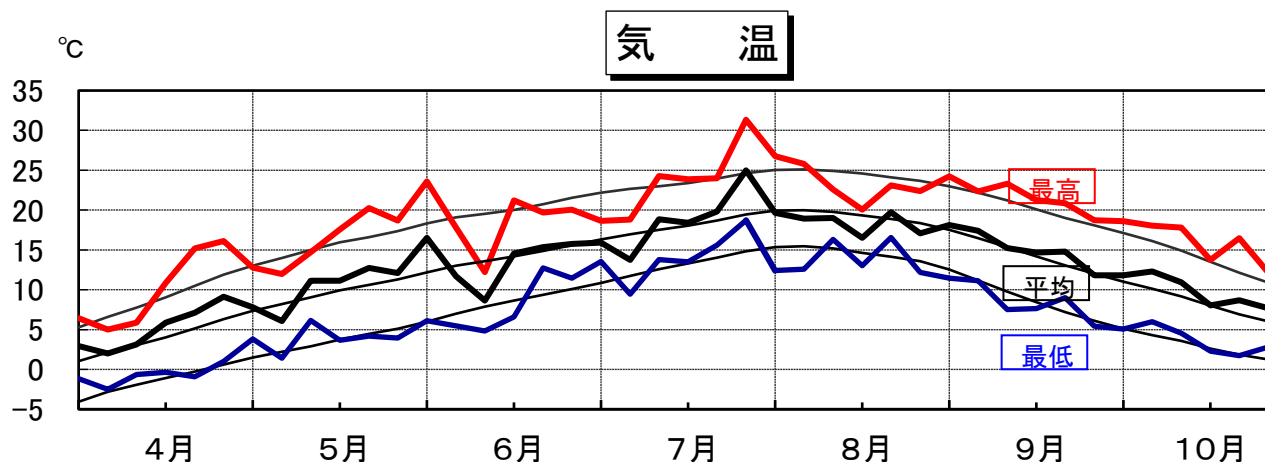
■農業気象平年対比総括表

項目	積算気温 (°C)			日照時間 (hr)			降水量 (mm)		
	30年	平年	対比	30年	平年	対比	30年	平年	対比
5~9	2,361	2,339	101	756	840	90	625	494	126
7	607	571	106	163	166	98	173	109	159
8	564	600	94	126	156	81	239	128	186

項目	年・比較			項目	年・比較				
	30年	平年	対比		30年	平年	対比		
長期積雪	終日	4/14	4/20	6日早い	霜	終日	5/7	5/18	11日早い
	初日	12/5	11/22	13日遅れ		初日	10/20	10/8	12日遅れ
※融雪期		4/14	4/22	8日早い	※農用地での普及センター測定値				

1 平成30年 気象経過

観測地: 中川アメダス



■農業気象平年対比総括表

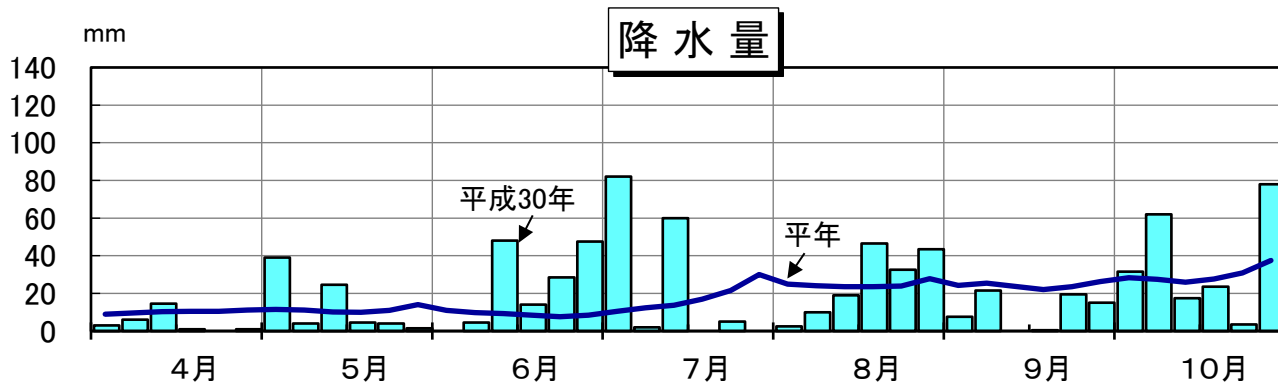
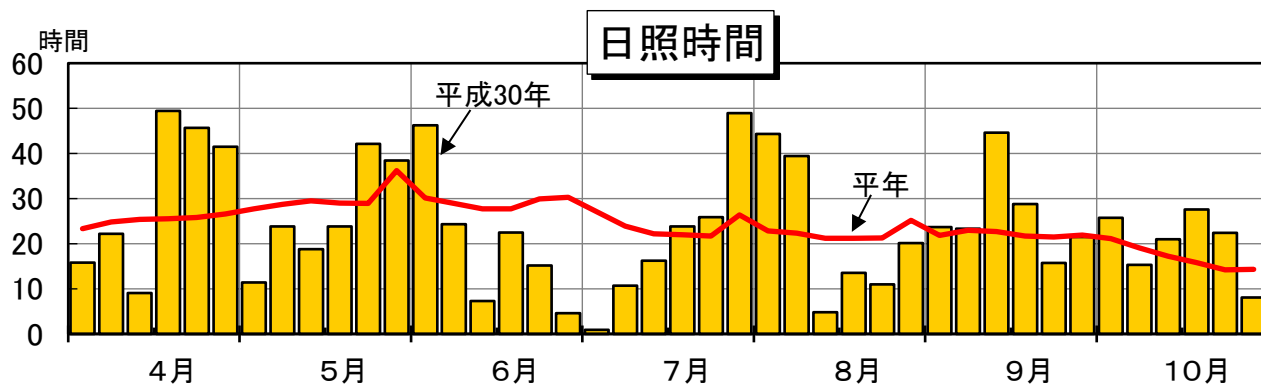
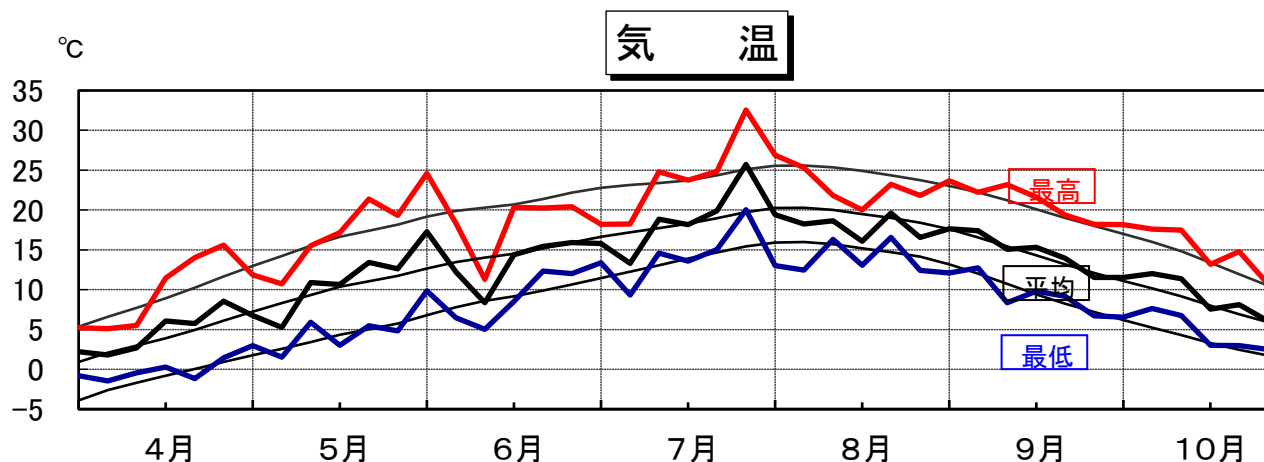
項目	積算気温 (°C)			日照時間 (hr)			降水量 (mm)		
	30年	平年	対比	30年	平年	対比	30年	平年	対比
5~9	2,345	2,307	102	711	812	88	497	511	97
7	584	554	105	137	149	92	131	105	125
8	572	600	95	133	147	90	111	141	79

項目		年・比較			項目		年・比較		
		30年	平年	対比			30年	平年	対比
長期積雪	終日	—	—	—	霜	終日	—	—	—
	初日	—	—	—		初日	—	—	—

※融雪期

4/20 4/20 平年並

※農用地での普及センター測定値



■農業気象平年対比総括表

項目	積算気温 (°C)			日照時間 (hr)			降水量 (mm)		
	30年	平年	対比	30年	平年	対比	30年	平年	対比
5～9	2,326	2,345	99	696	765	91	587	520	113
7	584	562	104	126	143	88	149	105	142
8	559	606	92	133	134	99	154	148	104

項目	年・比較			項目	年・比較			
	30年	平年	対比		30年	平年	対比	
長期積雪	終日	4/29	4/20	霜	終日	5/2	5/15	13日早い
	初日	11/17	11/19		初日	10/18	10/19	1日早い
※融雪期		4/29	4/22	※農用地での普及センター測定値				

2 平成30年度 主要農作物の生育概要

水 稲 (もち)	<ul style="list-style-type: none"> ○は種及び移植作業は平年並に行われ、活着期は平年並だった。 ○6月中旬から7月中旬にかけて低温寡照で推移したため、初期生育は遅れた。 ○8月中旬以降も低温寡照で推移し、登熟・成熟期は遅れ、収穫作業も遅れた。 ○穂数及び稔実歩合は平年並、1穂粒数およびm²当たり総粒数は少なく、千粒重は軽く、収量は平年より少なかった。
春 ま き 小 麦	<p>【初冬まき栽培】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○は種は10月27日から11月8日に行われた。 ○6月中旬から7月中旬に低温寡照が続き、成熟期は、例年よりやや遅い8月上旬となった。 ○収穫は8月9日に始まったが、断続的な降雨により例年より遅れ、8月19日に終了した。後半に収穫したほ場は、穂発芽により収量・品質が低下した。 <p>【春まき栽培】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○は種は4月29日から5月9日に行われた。 ○6月中旬から7月中旬に低温寡照が続き、成熟期は、例年より遅くなった。 ○収穫は8月13日に始まったが、断続的な雨により、8月21日に終了した。穂発芽粒が多発し、大部分が規格外となった。
秋 ま き 小 麦	<ul style="list-style-type: none"> ○は種は9月8日に始まり、23日に終了した。出芽、越冬前の生育はおおむね良好であった。 ○雪腐病による廃耕はわずかであった。6月中旬から7月中旬にかけて低温寡照が続き、成熟期は例年より遅い7月下旬となった。 ○収穫は7月30日に始まり、8月6日に終了した。製品収量は340kg/10aと昨年よりやや低くなった。
小 豆	<ul style="list-style-type: none"> ○は種は平年より2日遅い5月26日に始まり、6月3日に終了した。は種後は、高温の影響で出芽は平年より3日早い6月10日となった。 ○6月中旬から7月中旬に低温寡照が続き、開花期は平年より2日遅い7月30日となった。8月中旬以降、低温寡照が続き、草丈は短く、着莢数は少なく、成熟期は平年より7日遅れ、収穫期は平年より16日遅れた。 ○収量は平年を大きく下回り、品質も低下した。
て ん さい	<ul style="list-style-type: none"> ○融雪が平年より遅く、断続的な降雨により、移植は平年より3日遅い5月16日に始まり、5月26日に終了した。 ○移植後、6月中旬から7月中旬は低温寡照、7月下旬から8月上旬は少雨傾向となったため、根部の肥大は緩慢となった。収穫期はほぼ平年並となった。 ○収量は平年を下回り、糖分は高くなったが、糖量は下回った。
ば れ い し よ	<ul style="list-style-type: none"> ○融雪が平年より遅く、断続的な降雨により、植付作業は平年より6日遅い5月18日に始まり、最盛期は5月22日、植付終りは平年より3日遅い5月27日となった。萌芽期は植付の遅れに伴い、平年より3日遅い6月11日となった。 ○6月中旬から7月中旬にかけて、低温寡照が続き、開花期は平年より4日遅れ、7月12日となった。7月中旬以降、少雨で推移したため、塊茎の肥大は緩慢となり、いも数は多いが、上いも一個重は平年より軽い傾向となった。 ○収穫作業は、ほぼ平年並に終わったが、収量は平年を下回った。
そ ば	<ul style="list-style-type: none"> ○は種作業は6月上旬から始まったが、6月中旬から7月上旬の断続的な降雨により、例年、6月下旬には種は終了するが、例年より遅い7月中旬に終了した。 ○6月中旬から7月中旬は低温寡照傾向により、生育は遅れた。 ○7月3日の大雨により一部のほ場が冠水し、6月中旬には種したほ場を中心に、出芽、生育に影響が見られ、収量・品質が低下がした。

<p>牧草</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○萌芽期は平年より4日遅い4月29日であった。1番草の生育は、平年並に推移し、出穂期は平年並であった。 ○6月中旬から7月上旬までの断続的な降雨により収穫作業は進まず、1番草の収穫期は平年より10日遅い7月9日であった。 ○2番草の生育は、1番草収穫の遅れや7月下旬から8月上旬までの高温少雨の影響で、平年より遅れた。 ○2番草収穫作業は1番草収穫の遅れと8月中旬からの断続的な降雨の影響で遅れた。 ○年間収量（1番草・2番草の合計）は平年より少なかった。
<p>サトウ イロ しろ ろ ジ こ 用し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○は種期は5月28日、出芽期は6月7日と平年並であったが、6月中旬から7月中旬にかけての低温寡照により生育は遅れた。 ○その後、8月上旬まで少雨傾向により、草丈は平年より低く、雄穂抽出期・絹糸抽出期は平年より遅れた。黄熟期は、8月中旬以降の断続的な降雨・寡照の影響から平年より9日遅れた。 ○収穫作業は平年並に終わったが、収量・栄養価は平年より低下した。
<p>か ぼ ち ゃ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○定植作業は平年並の6月1半旬から始まった。定植のスタートは水分不足であったが、条件は比較的良好であった。しかし、中盤以降は降雨・低温の悪条件で作業が進んだ。 ○定植後は低温寡照の影響で生育が大きく遅れ、子づるの伸長は極めて悪かった。7月3半旬以降は高温となったが、少雨のため生育は回復せず、開花のピークは7月6半旬で例年より7日程度遅れた。 ○着果時期は天候に恵まれたが、生育量が十分確保できないほ場では小玉傾向となった。特に排水不良、連作ほ場では生育量が確保できず、うどんこ病が多発した。 ○果実肥大期以降、低温・日照不足で熟期も遅れ、収穫期は例年より10日程度遅れた。 ○収量は例年より20%程度少なかったが、収穫時期が好天であったため、腐敗果の発生は少なかった。
<p>ア ス パ ラ ガ ス</p>	<p><露地作型></p> <ul style="list-style-type: none"> ○融雪およびほ場乾燥の遅れから萌芽は例年よりやや遅れ、共選開始は5月21日であった。 ○収穫期間の初期は順調に萌芽したが、6月2半旬以降は低温寡照の影響で萌芽は少なく、細物傾向となった。収穫は例年より早く打ち切る傾向となり、収量は少なかった。 ○養成期間は7月2半旬以降の少雨傾向により、生育量はやや少ない傾向であったが、8月2半旬以降は降雨があり生育は回復した。 <p><促成作型></p> <ul style="list-style-type: none"> ○除雪作業およびほ場乾燥の遅れから萌芽は例年より遅れ、共選開始は4月12日であった。 ○収穫期間中は寡照傾向で、萌芽は例年より少なかった。 ○養成期間の生育は順調である。
<p>さ や え ん ど う</p>	<p><スナップえんどう></p> <ul style="list-style-type: none"> ○は種作業は平年並の5月中旬から始まり、出芽は良好であった。 ○生育は順調で7月中旬から出荷が始まった。7月4半旬以降の高温少雨の影響でガク枯れの発生が目立った。収量はやや低かった。 <p><さやえんどう></p> <ul style="list-style-type: none"> ○露地では、は種作業は平年並の5月中旬から始まり、出芽は良好であった。生育は順調で7月上旬から出荷が始まった。 ○8月中旬以降の断続的な降雨、日照不足によって草勢が低下した。収量はやや低かった。
<p>フ ル ー ツ ト マ ト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○定植作業は4月上旬から始まり、4月下旬～5月上旬が最盛期となり平年並であった。 ○5月～6月の寡照の影響により成熟の遅れが見られたが、7月中旬以降は気温が高く成熟が進んだ。6月2半旬以降は寡照多湿条件で灰色かび病の発生が多かった。また、軟果玉が発生し、特に7月下旬から8月上旬に発生が多かった。 ○8月中旬以降は日照が少なく、成熟が緩慢となった。収量はやや低くなった。